

クロスロードゲーム解説例

問題 1)

避難所とは不特定多数の人を収容する施設であり、一定のマナーやルールが必要です。ペットは家族同然という人が増えていますが、アレルギーや、糞尿の処理、鳴き声など、同じ室内に同居できない人もいることを考えましょう。ペットの対応は、専門のボランティアや、獣医師会などNPOに預けることができればよいのですが、そうでない場合は、自宅に残して定期的に見に行くとか、近隣でペット好きな方に代表して預かってもらう等、例があります。やむをえない場合の一時的な保護として、避難所の一部の軒先や倉庫等を借りることもできますが、あくまで同居生活をしないでよい方法をとってください。

問題 2)

過去の水害で結構多くあった事実です。雨の音が大きくて助けの声が近所にも聞こえないことや、助けを求める体力もなくしていることがあります。生命に関わる避難は早いことが第一です。他人の助けを求めることは、遠慮することではなく、恥ずかしいことではありません。このような要援護者への支援対策が、日常からの地域共助の成否を問われる最たるものです。名簿の作り方や誰が保管するのかといった議論よりも、どこに足腰の悪いお年寄りが居るかを、最低 20 メートル四方ぐらいいは皆で知っておくべきであり、誰かが助けるはずというのではなく、私なら助けに行けるといふ人たちの自己申告登録制度が進められます。

問題 3)

夜間の避難は、危険です。道路が冠水していて水路の区別つかないことや、マンホールの口が開いていることもあります。外に出たために怪我や死亡することも考えられます。夜間にやむを得ず外に出なければならない場合は、2 人以上で行動し、単独では動かないようにしましょう。照明器具とラジオを携帯するとよいでしょう。一番よいのは、早め早めの自主避難であり、避難しなければならぬ限界を知っておきましょう。日中でも、50センチの冠水で、人はまともに歩けません。また、避難の際は、長靴を履いているとかえって靴の中に水が入り歩けなくなります。もちろん、ぞうりやサンダル等は論外です。運動靴と長いズボンがよいでしょう。携帯電話は、つながらなくても、しばらくすると使えるようになるかのうせいがありますから、充電しておきましょう。

問題 4)

避難指示が出た場合は、全世帯の避難が強制されます。避難勧告の場合は、各自の判断に委ねられますが、近隣でできるだけ揃った行動が望まれます。今まで災害経験のない人や、自分だけは大丈夫と思っている人が、数時間後に、2階の屋根から助けを求める例があります。早めの避難を心がけましょう。

単独の避難よりも、近所で協力して避難することで、共有できる持ち物は減らすことも可能です。また、一緒に逃げることで安否確認が容易になります。

ほかに、どうしても移動ができない人がいる場合は、一番安全な建物に移し、連絡の取れる無線や携帯電話、携帯ラジオ等を用意して、避難所等といても連絡が取れるようにすることも考えられます。